

委員会事業報告

委員会名	未来創造特別会議				議長	金田祐季			
事業名	未来創造特別会議								
実施日時									
会場	因幡地域								
参加人員	内部	127	人	外部		人	計	127	人
事業実施背景	環光のまち因幡推進運動策定から10年、創立60周年を目前に控えた今、鳥取青年会議所の未来をどのように切り開いていくか議論を推し進める必要があります。								
事業目的検証	対内的	未来の鳥取JCが、今後も力強い歩みを進めることができる。							
引継ぎ事項	<p>全体説明会後のアンケートから、メンバーそれぞれが抱くまちやJCへのテーマ、課題を集約することができました。</p> <p>どの要素をビジョン化、事業化しても、報告書に纏めた提言に則って行うことで、必ず実のある活動へと繋がっていきます。</p> <p>本年度の活動報告をもとに、夢を与えるビジョンを策定してください。</p>								

委員会名	総務渉外委員会				委員長	野村亮介			
事業名	(公社)鳥取青年会議所新年祝賀会式典								
実施日時	2017年1月7日(土) 18:00～18:40								
会場	ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間(西)								
参加人員	内部	91	人	外部	86	人	計	177	人
動員計画検証	<p>参加推進計画の検証: 現役のメンバーの動員は、91名の出席と例年並みでしたが、80%を下回りました。また、副委員長が欠席するという事態も発生しているため、特に役を受けた会員への意識を向上させていく必要があると感じました。昨年の引継ぎには事業説明会の検討も上がっていましたが、審議可決後はスケジュールが非常に厳しいので、協議の時点から委員会訪問を行い、意識向上を行っていく必要があります。来賓、OB会員の動員は案内文、電話での呼びかけを行いました。純増には至りませんでした。こちらは拡大同様、1人ひとり大切にお招きすることが最善の策と考えます。欠席のはがきを提出された方でも、ほかの連絡事項と合わせて連絡する機会がありますので、担当者を変え、再度、案内をするなど、工夫を行うともう少しOBの出席率が向上すると感じました。</p>								
事業目的検証	対外的	<p>厳粛な雰囲気を出し、青年会議所ならではの緊張感のある空気感の中で行なわれた理事長の挨拶により、2017年度の活動方針をしっかりとご理解いただき、繋がりを深めることができました。</p>							
	対内的	<p>2017年度の活動方針を新年祝賀会において発信し、理事長が語られた真友と共に行うまちづくりの大切さという熱い想いに触れたことで、会員の意思統一と意識の高揚を図ることができました。</p>							
事業内容検証	運営上	<p>組織の体質上、ほぼすべての方が役の立場として初めての事業となります。新年祈願や理事役員の方々へのリハーサルはしっかり行う必要があるため、もう少し時間の余裕をもって行う必要があります。また、式典後の懇親会設営の時間も音響の関係で15分はかかるため、そのための懇親会開会遅延の司会文も準備しておく必要があると考えます。</p> <p>本年度からホテルニューオータニの担当者を変更になりました。新しい運営方法を新しい担当の中村様と構築していく必要があると考えます。</p>							
	予算上	なし							

その他	<p>本年初めて、副委員長にも早めに来ていただき説明を行いました。30分では把握しきれないので、リハーサルを十分に行い、運営委員会メンバーが声掛けをどんどん行っていかねばならないと感じました。しかし、副委員長が少しでも内容を把握していることで、運営が円滑になることは間違いありません。運営委員会メンバーでしっかりと流れを共有し、だれでも誘導の声掛けができるよう徹底した方がよいと考えます。何と言っても運営委員会の声掛けが肝であると感じました。</p>
次年度への引継ぎ	<p>本年度は準備段階から当日までの前日リハーサルを入念に行うことにより、委員会メンバー一人ひとりが役割を把握し、例年とは違う段取りの中、写真撮影、クロークなどはスムーズな運営を行うことができました。しかしながら、仮審議の段階での資料の準備不足に陥りました。最初に資料をすべて印刷し、1枚ずつ確認し準備を行う必要があります。</p> <p>式典においては厳粛な雰囲気演出し、青年会議所ならではの緊張感のある空気感で会を運営することができました。例年と違う写真撮影の運営も滞りなく終えることができ、来年度以降への運営体制の指針を構築できたと考えます。</p> <p>来賓、OBへの招待用書類が部分審議で最重要書類となるため、来賓リスト、OBリストの精査、各案内文など文章の書き方も含めて委員会内で何度も議論を行う必要があります。新年祝賀会の一番の難しさは前年度委員会と次年度委員会の間で事業構築していくところにあると感じました。10月末には部分協議を迎えます。メンバーの取り合いで委員会メンバーが集まらない中ではありますが、しっかりと委員会運営を行なうことが成功に繋がると思います。</p>

委員会名	広報渉外委員会	委員長	鶴巻 永
事業名	動員UPアカデミー		
実施日時	2017年6月17日(土) 10:00～17:00		
会場	鳥取産業会館鳥取商工会議所ビル5階大会議室		
参加人員	内部	77人	外部 3人 計 80人
動員計画検証	<p>参加推進計画の検証: 10:00から17:00までの長時間の講演の為、全ての講演への参加者が少なかった。</p> <p>事前に委員会訪問と電話連絡を行ったが、もっと講演の魅力と重要性をしっかりとメンバーに伝える必要があった。</p>		
事業目的検証	対外的	なし	
	対内的	<p>フェイスブックの閲覧数は昨年を大幅に上回る結果となった。</p> <p>事業後のアンケートより、参加メンバーの全員が広報の必要性を理解し、今後の広報計画に役立つと回答があり、93%がフェイスブックの活用方法を理解し、87%がプレスリリースの重要性を感じたという結果となり、メンバーの広報力の向上に繋がった。</p>	
事業内容検証	運営上	準備段階でコンプライアンスチェックの為、当日使用する資料を急がせたため講師に不快な思いをさせた。	
	予算上	講師交通費が¥16340(スーパーはくと)の予定が講師の時間の都合上¥18880(新幹線・スーパーいなば)に変更 差額△2540となった	
	その他	なし	
次年度への引継ぎ	<p>全体的に高評価だったことから、メンバーの広報知識が向上し、広報の必要性、重要性が再認識され、今後の事業構築に於いて、広報目線で事業構築ができる人材育成の一助となったと言える。各分野に分けて講師選択をしたことで、より深く広報について学ぶことができた。しかしアカデミーで学んだ内容は広報知識に於いてごくわずかなことです。全てのメンバーが、広報視点を持ち事業構築ができる段階にはまだまだ至っていないと思うが、今後も継続して広報知識の蓄積を行い、一人でも多く広報視点を持った事業構築を行える人材が育成されることを望む。</p>		

委員会名	会員交流委員会	委員長	山下 弥生
事業名	定例会の運営		
実施日時	2017年 1月18日(水) 2月22日(水) 3月22日(水) 4月19日(水) 5月17日(水) 6月21日(水) 7月19日(水) 8月17日(木) 9月20日(水) 10月18日(水) 11月22日(水) 11月29日(水) 計12回		
会場	鳥取産業会館・鳥取商工会議所ビル大会議室 白兔会館 ホテルモナーク とりぎん文化会館第1会議室		
事業目的検証	対外的	なし	
	対内的	<p>「事業目的に達した点」 今年度の定例会では、口頭で伝えるだけでなく、視覚的に時間を伝える時間メモを活用し、時間を意識した内容の濃い報告につなげることが出来た。 また、定例会直前の空気づくりとして定例会直前に着座にて静粛に待つことを呼びかけ、定例会に臨む姿勢を整える働きかけを行い、定例会に対する心構えを意識付けし、緊張感のある定例会につなげた。 さらに、他委員会の連動月では、入念なりハーサルを行い時間内の運営に繋がった。特に納会では、総務委員会、拡大委員会と司会文の言い回しなど、細かな部分も統一し、合同で入念なりハーサルも実施することにより比較的スムーズな運営が行えた。そして、定例会の報告に対する意識を高めてもらう目的でおこなったクローズアップ委員会報告では、5分という持ち時間で委員会の報告を行い、普段聞く側となるフロアメンバーに報告を体験してもらった。本年度は、若手を中心に報告に携わってもらい、時間内の報告に対する意識を体験により向上させる場となった。</p> <p>「事業目的に達しなかった点」 普段聞く側となるフロアメンバーにも、報告に対する意見を行える場として聞き取りボックスを設置したが、大半は定例会に対する意見が多く、情報共有ツールとして活用出来なかった。また、定例会最後に次回定例会の案内を入れる取り組みを行い、次回の定例会を早い段階での意識付けを行ったが、結果、昨年は84.1%、本年度は83.7%の出席率で0.4%低下する結果となり出席率の向上に繋げることができず、全会員を対象にすることができなかった。加えて、電話での定例会の出欠確認を行い、委員会メンバーと担当メンバーとのコミュニケーションを図り、直接アプローチすることで出欠率の向上を狙ったが、出席率の向上に繋げることが出来なかった。</p>	
事業内容検証	運営上	<p>会場について 使用時間が22時までの会場が多く、卒業生スピーチなどがある際など22時を超える場合の定例会会場に限られる。</p> <p>出席率、スリープメンバーについて 2017年度の定例会開催期間にはスリープメンバーが5人から14人(退会した人を含む)存在した。副委員長に聞き取りを行行いましたが、スリープメンバーが定例会に出席するのはなかなか難しいのが現状です。出席率に関しても、このスリープメンバーの存在は大きく、委員会によっては、出席率が常に低くなる委員が存在していました。出席率の向上に関しては、会員交流委員会だけではなく、会全体で、どのように対応するかを検討する必要があると考えます。また、欠席者の理由も様々ですが、定例会出席への認識が甘い結果となりました。今後は原点に立ち返り定例会の重要性をさらに伝える必要があると考えます。</p> <p>聞き取りの結果からもわかるようにJCに対し壁を作っているメンバーに対し、様々なメンバーがアプローチし、結果参加しづらくなってしまっているという現状があります。スリープメンバーへの対策は個々が事情で動くのではなく、会の中にスリープメンバーの対応チームを作り、どのようにアプローチしていくかを共有しながら行う必要があると思います。</p> <p>そのうえで、各委員会が対応した方がいいのか？会員交流委員会が対応した方がいいのか？理事役員が対応した方がいいのか？を検討し、動いていくという組織的な取り組みを行った方が良く感じました。</p> <p>また、スリープメンバー出欠に対する対応ですが、病欠等の場合は出席率に反映させないでとるか、状況に合わせて対応ができる基準を設けるのが良いと考えます。スリープメンバーとひとくくりにするのではなく、状況を確認し対応を会全体で考えていく必要があります。</p>	

予算上	卒業生スピーチで使用する垂れ幕代を卒業式の予算に入れていたため、発注がギリギリになった。来年以降、卒業生スピーチのスタートが早くなる場合は、定例会の予算に入れスケジュールに合わせた発注ができるようにした方が良い。
その他	なし
次年度への引継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ●出欠確認等について ・定例会の出欠確認の欠席者を委員会の副委員長に連絡し、出席を促す。 ・定例会の事前電話での出欠確認については、室長以上は委員長が確認。理事長に関しては、副理事長の場合あり。(確認してください。) ・出欠確認の電話に出てくれないメンバーがいる。工夫が必要。 ・慶弔の順に気を付ける。順番は別紙参照。他

委員会名	会員交流委員会				委員長	山下弥生	
事業名	卒業式						
実施日時	2017年11月30日木曜日 18:00～19:22						
会場	ホテルモナーク鳥取 2F鳳翔の間						
参加人員	式典	84人	懇親会	91人	計	91人	
事業目的検証	対外的	なし					
	対内的	<p>卒業生への聞き取りの結果、全体的には良かったとお声をいただき、事業目的は達成できた。時間、進行については、少し押ししたものの比較的スムーズに行われ、事前の動画によるシミュレーションが功を奏した。</p> <p>来年度以降は卒業生も増えさらに時間や進行に工夫が必要となる。卒業式は委員会内だけでは調整できないことも多くあるで、卒業生に事前に聞き取りをし、確認をしながら調整を行っていった方が良い。</p>					
事業内容検証	運営上	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルモナークは22時までしか使用できません。開催時間が長くなる場合は、会場選定が必要。 ・感謝状の内容について一部の卒業生に対し受けを狙ったフランクな内容となってしまった。感謝状の作成に関しては精査がかなり必要となります。 ・卒業証書・感謝状・記念品授与の際の写真撮影は3回のところを、卒業生の希望により1回に変更となった。3回のみでいくと非常に時間がかかる。あらかじめ卒業生に確認をするなどして、工程の見直しを行う方がよい。 ・全体写真の撮影を当日受け渡すためモナークにお願いしたが、当日お渡ししてきたものの、写真が小さいという声があった。全体写真なので写真のサイズを大きくできないか検討した方がよい。 ・帽子について、他の人がかぶったものをかぶりたくないという声があった。また写真撮影の際、本年度は帽子を取って撮影した。帽子の在り方について検討した方がよい。 ・式典中に、足を組み、スマホをいじる会員の姿があった。式典中のマナーについて周知徹底を行う必要がある。 					
	予算上	卒業生スピーチで使用する垂れ幕代を卒業式の予算に入れていたため、発注がギリギリになった。来年以降、卒業生スピーチのスタートが早くなる場合は、定例会の予算に入れスケジュールに合わせた発注ができるようにした方が良い。					
	その他	なし					
次年度への引継ぎ	<p>会場に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年と同様『仁風の間』をすべて貸切、開催しました。会場内は、エール時(走って向かう時)や、卒業生の送り出しを行うのに十分なスペースがあり、運営上に問題はありませんでした。 ・会場側の対応もよく、設営・準備段階から、リハーサル等、よく対応して頂きました。他 						

委員会名	会員拡大委員会	委員長	富田知史
事業名	会員拡大必達20名以上継続に向けた年間の取組		
実施日時	<p>拡大運動:2017年1月1日～2017年12月31日 拡大アカデミー:2017年1月27日(金) 6月30日(金) 19:30～21:00 研修会員向けアカデミー 拡大アカデミー:2017年1月30日(月)19:30～21:30会員向けアカデミー 異業種交流会:2017年3月24日(金) 5月12日(金) 9月1日(金) 11月2日(木) 19:30～21:30 JCパンフレットの作成・配布:2017年6月13日以降後印刷</p>		
会場	<p>拡大アカデミー(正):鳥取商工会議所産業会館大会議室(1)(2)(3) 拡大アカデミー(研)鳥取商工会議所産業会館大会議室(3) 異業種交流会:カフェソースバンケット</p>		
動員計画検証	<p>拡大アカデミー:定例会での出欠確認、委員会訪問、その後一人一人への声掛けを行い、正会員の動員に関しては約72%となり、研修会員に関しては約57%となりました。1年を通じた拡大運動に対する意識付けを行う本事業としては100%の動員を目指すべきだと考えます。 100名を超える全会員のスケジュール調整を1日に合わせて頂くのは難しい為、参加できなかった方に対しての意識付けに対するフォローとして、補講や事業内容が伝えられる資料の送付などの工夫が必要。 異業種交流会:第1回から4回まで5:5の割合で100名以上の動員を達成 外部参加者に関しては88%がメンバーからの紹介や同伴という結果と直接申し込みの少なさから、メンバーへの声掛けの大切さ、本年度行った広報戦略の費用対効果の薄さを感じる結果となりました。</p>		
事業目的検証	対外的	<ul style="list-style-type: none"> ・11月末日において21名の入会達成 ・異業種交流会において37名の新規情報の獲得と13名の入会のきっかけづくりが行えた事 ・JCパンフレット使用者アンケートから使いやすさが向上したという結果 	
	対内的	<ul style="list-style-type: none"> ・会員間の相互理解によりメンバーの居場所を作り出す事が健全なJC活動に繋がることを知って頂けた事。 	
事業内容検証	運営上	<p>異形種交流会について 審議承認後のチラシデータを安易に変更し、印刷配布してしまいました。 本来審議承認をされた内容を変更するのであれば、修正審議をかけてから印刷及び配布という手順で行うべきでした。 この度のように印刷してしまった後であればチラシを回収し、予算変更の審議を頂いたのちに修正審議、その後の印刷及び配布という流れで行うべきでした。</p> <p>退会希望者のフォローアップについて 退会者情報の入手先やタイミングがバラバラなので、しっかりとルール決めを行い、周知する事が必要。</p> <p>新規情報の獲得について 拡大タイムでの情報収集はメンバーとの相互理解が生まれず成果は出なかった為、情報収集は委員会訪問。拡大タイムは副委員長と相互理解し、能動的な拡大運動へつなげる取り組みが必要。</p> <p>情報の共有について WEB版拡大リストの管理者一人ではリスト更新頻度が低くなるため、3人程度の管理者が必要。</p> <p>WEB版の拡大リストの見方、使い方が分からなくて閲覧できていない方が多数おられた為具体的なレクチャーが必要。</p> <p>クロージングまでの動きについて JCパンフレットが必要な時に手元にないという声が多く、HP上に置いておく等の工夫が必要。</p>	
	予算上	なし	
	その他	なし	

次年度への引継ぎ	拡大成功の秘訣は、しっかりとJC活動に取り組み、伝えられる魅力の引き出しを増やし、背中を見せ、メンバーに会って、話して、頼んで、巻き込み、対象者とマッチするメンバーでクロージングを行う事です。それを出来るメンバーを何人生み出せるかが会員拡大委員会の責務です。しっかりと計画を練り、『情熱を持って全員で取り組む拡大運動』を実現するために、動機づけを行い、拡大運動参加率向上につなげる活動を行ってください。
----------	---

委員会名	人間力開発委員会	委員長	山本学
事業名	未来を担う研修会員の研修会		
実施日時	前期:2017年1月入会～正会員承認まで／後期:2017年6月入会～正会員承認まで		
会場	鳥取産業会館他		
参加人員	前期	11人	後期 10人
事業目的検証	対外的	なし	
	対内的	<p>研修会員感想文より、第1回研修会とJCIセミナーを通して、鳥取青年会議所およびJCIの基礎の理解を深めること、またマナー講座により社会人としての礼節を学ぶ事ができた。第2回研修会・理事会見学・第3回研修会を経て、活動に対する背景・目的を調査研究し、チームで新たな事業を構築し、メンバーを動員し発表することで各政策への理解を深めると同時に研修内容を達成できた。その一連の体感を通して、メンバー同士の連帯感のもと活動自体を身近に捉えていただき、今後の活動を積極的に行っていくという姿勢や決意を得ることができた。</p> <p>本年度は、3回の研修会の他にJCIセミナーと理事会見学を行ったが、実施する順序により、より効果的な研修会となるよう構成した。</p>	
事業内容検証	運営上	<p>研修会員は入会后、日ごろの委員会などのJC活動において人間関係を構築するなど同じメンバーとして活動するが、研修会においては、運営委員会ひいては青年会議所がどのような組織なのか、どのような価値があるのかと客観的に評価評論する傾向にある。そのため運営委員会は、研修会を事前にしっかりとシミュレーションを行い、毅然とした態度で実施することが、研修会員にとって青年会議所の価値を感じさせ、研修会に真摯に向き合ってもらうための大切な最初の一步であると考え。</p> <p>本年度も、事前に準備委員会を実施し、シミュレーションを行い研修会に向かったが、特に前期の第1回研修会において、動き方のミス、OBのアテンド方法のミスがあり、シミュレーションおよび準備不足であったことが露呈した。</p>	
	予算上	なし	
	その他	<p>本年度、後期第3回研修会において、必要なバスの手配を計画通り行うことができず、バス会社の変更を行い、修正議案を提出させていただいた。</p> <p>原因としては、バス手配会社に見積もりと打ち合わせを事業計画の時点で行っていたが、第3回研修会の日程決定後、すみやかにバス手配会社へ連絡を行っていなかった。後期第3回研修会の時期は観光シーズンも重なり、結果としてバスを確保できなかった。</p> <p>研修会の日程においては、他事業日等との日程調整もあり、事業計画段階では日程を決めることができない。事業計画承認後、可能な限り早い段階で日程を決定し、決定後すみやかにバス手配会社へ通知する必要がある。</p>	
次年度への引継ぎ	<p>研修会員の基礎を作る研修会は、その後のJC活動への考え方を醸成し、スケジュール管理を含めた研修会員のJC活動への積極的な取り組み方を構築します。しっかりとシミュレーションを行い毅然とした運営を行うことと共に、研修会員の日頃の委員会活動や事業への参加を把握し、運営委員会と所属委員会の役割を共有することで、研修会員の生活の変化が一番大きいこの研修期間においてしっかりと導くことが必要です。</p> <p>また、JCIセミナーや理事会見学の順序、各研修会の間隔など細やかなところにしっかりと意義を持って設定することで、運営委員会メンバーが共通意識を持って取り組むことができ、より研修会員に対して目的を達成する結果となります。</p>		

委員会名	人間力開発委員会				委員長	山本学		
事業名	3分間スピーチ							
実施日時	2017年 1月～8月 定例会時							
会場	定例会会場							
参加人員	内部	127	人	外部		人	計 127 人	
動員計画検証	なし							
事業目的検証	対外的	なし						
	対内的	相手に伝える力の向上を目指し、本年度の工夫として発表者に3分間スピーチテキストの配布を行いました。その結果、添付資料02アンケートにより、スピーチの作成から発表までの方法が身に付いた発表者が全14名中13名となりました。そして実際に自分の考えを伝えることができた発表者は、10名と3分の2以上の方が実感することができました。実感することができなかったメンバーもスピーチの方法が身に付いたことから、今後経験を重ねることでより伝える力を向上していくことができると思われまます。						
事業内容検証	運営上	<p>【事前フォロー】</p> <p>発表者の原稿提出が遅くなり、所属委員会の委員会開催との日程が合わず、委員会訪問が出来ないことがありました。定例会時に次回発表者への説明を行っていましたが、その際、所属委員会へのスケジュールや委員会訪問の説明を行っていませんでした。委員会開催日と日程がどうしても合わない場合は、委員会開催以外で所属委員会と日程を調整し、事前フォローのための集まる場を設ける必要がありました。</p> <p>【スピーチ】</p> <p>内容において、発表者の個性と主張が強く、厳粛な定例会の場にふさわしくない表現や、言葉遣い等がありました。3分間スピーチの貴重な機会と定例会での時間の大切さを含めて、事前に意識を高めておく必要がありました。さらに、原稿チェック段階で公の場で話す原稿としてふさわしいかどうかといった点でも確認は行っておりましたが、言葉が抜けたり、話すタイミングが違うなど、本番で聴衆に不愉快な印象を与える発表になる可能性も考えた確認を行う必要がありました。</p> <p>また、タイマーが鳴ったときに言い切ることや、時間が余ったときの対処方など周知できていませんでしたので、その部分についても事前にしっかりと指導しておくべきでした。事前配布の「3分間スピーチの心得」資料の修正について、次年度に引き継ぎます。</p> <p>【講評】</p> <p>当日指名の講評ではありますが、講評についての理解不足が見られました。委員会訪問時に、さらに周知できるよう配布資料などを用意すべきでした。講評記入用紙の中「講評者の心得」について、理解を広める必要がありました。</p>						
		予算上	なし					
		その他	なし					
次年度への引継ぎ	<p>本年度は、自分の想いを掘り下げてまとめ、聞き手にしっかりと伝えるという明確な思いでテーマ設定や設営を行いました。3分間スピーチを通して何を得られるのかということ、テーマ、事前フォロー、発表、事後フォローを通して一貫して実施することが必要です。</p> <p>目的を明確にした設営を行うことで、伝統的な分間スピーチを、より時代に即した効果的な事業とすることが必要であると考えます。</p> <p>また、発表者指名から本番までのスケジュール管理をしっかりと行うことで、発表者のスピーチに対する意識を持続し、余裕を持って原稿作成と練習を行うことで、さらに目的に沿った事業成果が得られます。</p>							

委員会名	地域コミュニティ推進委員会				委員長	網尾和亮		
事業名	～支え愛絆でつなぐコミュニティ～『宿泊型避難所体験』							
実施日時	平成29年9月2日(土) 9月3日(日)							
会場	千代水地区公民館・千代水地区体育館・千代水地区地内							
参加人員	内部		人	外部		人	計	379 人
動員計画検証	参加推進計画の検証:当初、1日参加者も含めて、300人程度予定していたが、それを上回る379名が参加した。その要因として千代水地区実行委員会の多大なる協力が大きいと考える。そして、チラシからの応募者が鳥取県東部47名、倉吉11名、東伯3名、米子1名の合計62名あった。行政機関に視察依頼書を送ったことで、自治会関係者の参加者の獲得にもつながった。さらに、NHKに事業前日、生中継で放送して頂いた効果で、当日の飛び入り参加者も獲得できたと思う。							
事業目的検証	対外的	地域住民と一緒に事業を体験したことにより、日本一住みよいまち実現に向けた意識の醸成に繋げる事が出来た。地域住民の協力もあり動員計画も達成した。						
	対内的	乳児から高齢者までの幅広い世代が参加し、県内初の1泊2日で開催した「宿泊型避難所体験」や「支え愛マップ作り」を通して、普段触れ合う事のなかった人々が交流することでコミュニティを活性化する事が出来た。また、参加者のアンケート結果から、地域コミュニティの必要性を改めて感じて頂く事が出来た。						
	運営上	千代水地区役員に一任していたコーナーの段取りの精度が低く、急遽JC側が対応するケースがあった。あらかじめ対応策のシミュレーションをしていた為、事業への影響はなかった。そして、事業当日、目標動員数以上の来場者があり、受付で対応しきれず、アンケートを回収しきれなかった。参加者傷害保険についても同様に保険適用人数以上の来場者が来た場合の対応策の検討が必要。						
	予算上	当初は、公民館だけに報告資料を紙資料で送るつもりだったが、各自治会関係者や社会福祉協議会から、当日の事業の様子がわかる資料もほしいと要望があった。写真や映像データの追加により、データ量が膨大になったため、急遽DVDが必要になった。発信部分での試算の甘さがあった。						
	その他	マスコミ対応のマニュアルが必要だと感じた。						
次年度への引継ぎ	地域コミュニティの必要性を引き続き様々な角度から検証し、その地域の課題と幅広い年齢層のニーズに合わせたコミュニティ活性化のための事業実施。外部協力者との共同事業の場合、一般の方とJCとは、意識レベルの差があることを理解しておく必要がある。何でも、JC側がするのではなく、相互にバランスのとれた協力関係を構築するべきである。							

委員会名	青少年育成委員会				委員長	早島 岳大		
事業名	若草学園施設交流事業							
実施日時	2017年3月3日(金)10:00～12:30							
会場	若草学園・湖山西体育館							
参加人員	内部	70	人	外部	80	人	計	150 人
動員計画検証	今年度も、事前説明会は行わず2月定例会で動員の呼びかけを行いました。また今年は保護者からの手紙を頂き、JCに対する熱い想いを委員会訪問時に伝えました。しかし雪害により参加告知の期間が限られ、スケジュールが合わず訪問できなかった委員会がありました。事業当日は雪害の影響は落ち着いてきたとはいえ、体調を崩されるメンバーや仕事に支障をきたしているメンバーがいる中、昨年より少し減りましたが70名という多くのメンバーに参加していただきました。							

事業目的検証	対外的	今年度は、動物園コーナーを設けてタオルブランコなどで子供たちの笑い声が溢れていました。また、毎年人気の新聞紙プールでは親や先生たちと思いきり遊んでおり、大人も子供も笑顔でいっぱいになっていました。それぞれの子供たちにあったブースが設営できた事により満遍なく各ブースで笑顔や笑い声が溢れ和やかな雰囲気最終楽しんでもらいました。
	対内的	委員会訪問できなかった委員会メンバーにも多数参加して頂きました。毎年行われる若草学園との交流事業に重要性を感じ委員長からメンバーへ参加を促し、意欲的に参加して頂きました。 JCメンバーのアンケート結果から、意欲的に子供たちと触れ合ってもらいました。メンバーは手伝いに来ているという認識ではなく、こども達と思いきり遊びに来たという意識で子供たちとふれあい絆を深めあったと感じました。また思いやりも心を育み、子供たちの笑顔でいろいろな気づきを得ながら福祉に対して、メンバーが向き合ってもらったと考えます。
事業内容検証	運営上	対外的目的:一番楽しみにしていた、しいたけのもぎ取り体験ブースが中止となり、子供たちや保護者そして先生の御期待に添えませんでした。来年は、ほだ木の浸水及び浸水期間から、気候の変化への対応、保管温度管理が飼育には重要だと考えますので、グリーン委員会との十分な打ち合わせ、協力が必要になると考えます。 鳥取大学どんぐり会が提案したダンスを覚えれず、当日見よう見まねになってしまいました。来年は若草学園の先生と事前に打ち合わせを行い、園児でも簡単に踊れるダンスや、みんなが楽しめるアトラクションを検討してもらおうと考えます。 対内的目的:70名と多数のメンバーへ参加して頂きましたが、参加者が昨年より少し減少しました。委員会訪問の時期が合わず訪問できなかった委員会があった事や、委員会訪問をしても事業当日の参加者が少ない委員会があった事も踏まえ検証した結果、委員会訪問時居なかったメンバーへの動員への対応ができませんでした。また、委員会訪問の内容は良かったという意見が出ましたが、個人事業主や雇われているメンバーは平日の参加は難しいとの声もあり、各委員会の参加人数のかたよりに繋がったと考えます。より多くのメンバーに参加してもらおう為には、メンバーが多く集まる定例会や事業説明会等を行い動員の呼びかけをしていく事も必要と考えます。
	予算上	なし
	その他	なし
次年度への引継ぎ		今年度は、「想い」という部分から委員会訪問を行い、各委員会メンバーへ保護者のJCに対する気持ちを感じていただき、若草学園との交流の必要性や重要性を理解してもらった上で参加して頂きました。しかし昨年より参加メンバーが減ってしまい、より多くのメンバーへ参加してもらうためには、メンバーが多く集まる定例会や、昨年と今年行っていない事前説明会を実施し、参加したことのないメンバーへ伝えていく事で参加者の動員へ繋がると考えます。 鳥取大学のどんぐり会の皆様には、毎年良きパートナーとして御協力頂いております。どんぐり会主体のアトラクション以外はJC主体で準備している中、引き継ぎ連携不足や事前準備不足などの御意見を頂いております。予定者段階の11月中頃には打ち合わせを行い、密な連携をとっていただくことが強固な連携となり事業成功へ繋がると考えます。

委員会名	青少年育成委員会	委員長	早島岳大
事業名	超遠足in山陰海岸 ～自分への挑戦！ジオパークロングトレイル～		
実施日時	事前説明会:2017年9月16日(土)10:00～12:00 事業当日:2017年9月23日(土)6:45～18:30		
会場	2017年9月16日(土)事前説明会会場(委員会対応):とりぎん文化会館 第2会議室 2017年9月23日(土)トレイル会場:陸上海岸駐車場(スタート地点)～鳥取砂丘旧砲台跡地(ゴール地点)		
参加人員	内部	87人	外部 29人 計 116人
動員計画検証	対外参加推進計画の検証:締切日の参加申し込み者数は、30名中35名と余る人数となった。夏休み前の早めの告知と、SNS等での早い時期からの動員募集も出来た。スポーツクラブチームへの動員のお願いも効果があった。保護者も、自分のこどもが体力面や精神面でどのくらい我慢や成長が見えるのか、興味があったようだ。		

		<p>対内参加推進計画の検証:87名と多数のLOMメンバーの参加協力となった。8月の定例会で、最初の出欠をとったが△が多く、9月初旬に委員長が、メンバー一人一人にどんな役割で協力してもらえるかヒアリングを行い、そして出欠を取り出席するよう促した。そのあとの委員会訪問にて、再度出席メンバーの役割等を説明し責任を持ってもらう事で、当日多数のメンバー出席に繋がったと考える。</p>
事業目的検証	対外的	<p>次世代リーダーとして、成長してもらうための手法である郷土愛の醸成結果として、事業前後のアンケート結果から、「地域の歴史や自然・文化に興味を持つようになった」という回答が倍に増えており、また「地域の行事には積極的に参加するようになった」と答えたこどもも、2割近く増えたことから、郷土への興味や参加意識は確実に増していたと考え、仲間と共にジオパークロングトレイルを制覇したことは、思い出となり将来の地域で活躍する為の心の土台が育まれたと言える。</p>
	対内的	<p>事業への参加及び協力に多くのメンバーで参加して頂き、こども達への積極的な声かけや、コミュニケーション、そしてこども達とゴールの喜びを共感できたことで、こどもの体力面や精神面の強さに、沢山のメンバーが驚いていました。 こども達と一日関わり、今のこども達が将来に向け、とても頼もしく次世代のリーダーが成長していく過程として期待を感じて意識も高まっていただけだと考えます。</p>
事業内容検証	運営上	<p>①あまりにもこども達のペースが早く、予定時刻より早くゴールしてしまう可能性があったため、途中オアシス広場でアクティビティに時間をとり、ゴール時間を調整してしまいました。 ②LOMメンバーのリタイヤが出てしまい、どこの場所で、またはどのタイミングで送迎車に乗ってもらうか決めておくべきでした。 ③弁当の配給が、形状等の理由で一定の場所になってしまった。(こども達の役割を果たす事ができなかった)弁当は、持参してもらう方が良いと考えます。 ④こどもから「役割を果たせる所がなかった」という、声があった。役割を果たせるようなポイントや環境を整えるべきでした。 ⑤トレイル中に、こども達が考えてゴールを目指しているのにアドバイスや指示などの介入があった。一緒に歩く大人(メンバーやガイドクラブなど)に対して、事前説明会などを行い周知徹底が必要と考えます。</p>
	予算上	<p>通帳作成時に入金した1000円を、謝って2回引き出してしまいました、さらに108円の時間外手数料もかかってしまいました。なお、時間外手数料の108円は青年会議所負担となることから、事務局より108円負担頂き、再度返金という処理となってしまいました。</p>
	その他	<p>青少年育成懇談会の、外部団体との日程調整は行っていたが、急な欠席団体があり2回目の懇談会は2団体となってしまいました。</p>
次年度への引継ぎ		<p>この度の事業を通じて、こども達は想像以上に成長しました。また、リーダーとしての成長に留まらず、大人へと成長していく精神の成長も見られました。この結果から、次世代のリーダーとは青少年の健全な育成を行うことによって創出されていくものと感じました。 因幡地域のこどもたちは私たちの宝であり未来の光です。今後はリーダーという枠にとらわれず、因幡地域の青少年の健全育成の取組みが継続して行われることを望みます。そのためにも保護者や多くの青少年育成団体、外部協力者を巻き込み、目的を共有し、事業を開催してください。</p>

委員会名	社会参画推進委員会	委員長	徳吉 淳一
事業名	ジブンゴト！～はじめよう私から 考えよう未来を～		
実施日時	・4月23日 ・7月1日、2日 ・7月30日 ・10月7日		
会場	<ul style="list-style-type: none"> ・4月23日:鳥取産業会館5F大会議室 ・7月1日、2日:鳥取産業会館5F大会議室 ・7月30日:カフェソースバンケット ・10月7日:カフェソースバンケット 		

参加人員4/23	内部	51人	外部	12人	計	63人
参加人員7/1	内部	34人	外部	12人	計	46人
参加人員7/2	内部	42人	外部	12人	計	54人
参加人員7/30	内部	29人	外部	12人	計	41人
参加人員10/7	内部	49人	外部	12人	計	61人
動員計画検証	<p>外部参加者の募集人員を15名としていたが、それを下回る12名が参加した。内訳は高校生2名、大学生9名、社会人1名であった。特に、高校生の参加が少なかった。その2名の高校生はいずれも青翔開智高校の生徒であった。青翔開智高校では、ホームルームの時間に事業のプレゼンをさせてもらい、そのプレゼンを聞いた生徒が募集してきた。そのほかの公立高校に関しては、チラシ配布をお願いしただけで、先生や生徒と直接お話をすることをしなかったことが動員につながらなかった大きな要因であると考え。また、7月1・2日はほとんどの高校で定期テスト期間であり、そのことも参加の妨げになったと考える。大学生に関しては、チラシの配布ができず、コネクションズの代表の方から鳥取大学生と環境大学生の知り合いを紹介してもらい、一人ずつ会い、事業の説明を行い動員につながったが、もっと多くの人に会えるように紹介してもらおうことができたのではないかと考える。環境大学生は、5名ほど説明させてもらったが、動員に繋がらなかった。</p> <p>鳥取の学校では、看護専門学校、歯科衛生士専門学校など専門学校もあったので、そこにも動員をすればよかった。大学生という外部参加者の要件にしたので、鳥取大学、環境大学しか頭にならなかったため、動員計画の時点でもっと精査が必要であった。</p>					
事業目的検証	対外的	<p>参加者全員が、ジブンゴトを振り返り、そのジブンゴトから未来を考え、プロジェクトを作成することができていた。ただし、プロジェクトの実行となると、2名の参加者が実行することができなかった。事業終了後、この2名と面談し、理由を確認したところ、自分なりに原因を分析し後悔していることから、今後の自分の人生に教訓として生かしていきたいと考えており、この2名については失敗から成長を学んだ。プロジェクトを実行できなかったことはプロジェクト作成の段階で、もっと委員会メンバーがしっかりとファシリテートを行うことが大切であったと考えられる。プロジェクトの発表資料、ファシリテートの結果から、プロジェクトを実行していく中で、実行しながら成長していった参加者、途中から進捗が遅れていたことに気づき焦ってやり始めた参加者、最初は計画どおりだったが途中からペースダウンした参加者、終始中途半端にプロジェクトを実行していった参加者など、様々だったが、最後には、残りの10名は発表を成し遂げたことで、参画力は向上した。また、アンケートの結果からも、12名中10名がこれから先、主体的に何かに関わっていきたいと考えるようになった。これから先、参加者がどのように社会へ関わっていくのかは今の段階では計れないが、参画への意欲は養えたので、将来的に「鳥取の未来を考え、参画していく若者」を育てる一助となったと考える。</p>				
	対内的	<p>当委員会メンバーに関しては、講習を受け、実際にファシリテーターとして事業を行い、その後のプロジェクト達成までのフォローも行うことで、ファシリテーターとしての経験を体験でき、「因幡地域における、参政参画意識向上の先導者」としての一助となったと考える。そのほかの事業に参加していないメンバーに関しては、残念ながら先導者としての育成に至らなかったと考える。</p>				
事業内容検証	運営上	<p>7月1日、2日・10月7日の会場を変更せざるをえなかった。理由は、7月30日、10月7日に使用を予定していた産業会館5階大会議室使用について予約をしていた。ところが、当委員会の予約後に商工会議所の事業が入り、そちらを優先するため使用はできない旨の連絡があった。よって、7月30日、10月7日の会場について、カフェソースバンケットに変更をした。</p>				
	予算上	<p>7月1日、2日の事業までに、口座開設、入金処理を怠っており、現金を引き出す事ができなかったことが原因で、事業参加者への障害保険料の支払いにおいて、委員長が現金で立て替えをしてしまいました。10月13日に口座から現金を引き出し、立て替えていた委員長へ返金しました。再発防止策としては、事業参加者の保険に加入する場合、口座振り込みが可能な保険会社を選定することがのぞましいと考えます。また、審議承認後、すみやかに口座開設、入金処理を行うことが必要です。</p>				
	その他	<p>事業参加者と委員会メンバーが頻繁に連絡を取り合うにあたり、高校生においては保護者を介しての連絡の取り方になってしまい、ご迷惑をかける形となったので、対応策を考慮しておくべきだった。</p>				

次年度への引継ぎ	①事業日の選定について 高校生、大学生を対象に事業を行う場合は、学校行事をあらかじめ確認しておく必要がある。今回の事業では、7月1、2日は各学校がテスト期間中であり、高校生の参加自体が厳しかった。また、10月7日が鳥取大学の学園祭であったので、参加できないと断れたケースもあった。他
----------	--

委員会名	因幡のグリーン政策委員会	委員長	西山雄一郎
事業名	フォレストダイブ		
実施日時	2017年8月6日(日)里山レストラン、2017年9月24日森のがっこう		
会場	里山レストラン・・・鳥取県八頭郡智頭町那岐小学校グラウンド 森のがっこう・・・鳥取県八頭郡若桜町若桜学園とニホンリスの森		
参加人員(里山)	内部	59人	外部 73人 計 132人
参加人員(森)	内部	53人	外部 37人 計 90人
動員計画検証	結果として、両事業とも予定していた定員の90%以上の参加者で事業を行う事ができました。しかし、参加者の事情で欠席をされる方が出てしまったのは残念でした森のがっこうの40名の動員はチラシ配布だけでは定員となったのですが、80名の動員をした里山レストランでは、チラシ配布だけでは定員に達せず、動員に動く事となりました。アンケート結果でも87%が学校配布チラシで申し込みをした森のがっこうに比べ、里山レストランは42%と半分でした。代わりに38%が会議所会員からの紹介で事業参加を決めたとなっており、組織の力が不可欠な動員でした。		
事業目的検証	対外的	<p>フォレストダイブ 里山レストラン 林業の先進地である智頭町で実施する事が出来ました。 また、智頭町をはじめ、智頭公民館の皆様や、いざなぎ振興組合の皆様、専門家として阜月屋の大谷氏、タルーマーリーの渡邊格氏、チェーンソーアートの齋藤氏等多くの方と一緒に作り上げた事業であり、魅力的な体験を最高の環境で実施する事が出来ました。アンケート結果では、子供の97%が楽しかったと回答してくれ、大人の89%がまた参加したいと回答して頂いた事から、魅力的な体験を届ける事が出来ました。また、大人の98%の方が事業を通して環境の意識が変わったと回答してくれた事より、大人への啓蒙も出来たと実感出来ました。</p> <p>フォレストダイブ 森のがっこう 自然と生物が豊かな地である若桜で実施できました。 また、若桜町をはじめ、ニホンリスの森プロジェクトのメンバーや、会場を快く貸して頂いた若桜学園の皆様、清末先生、山本先生、牛島先生を始めとする多くの方と一緒に作り上げた事業であり、魅力的な体験を最高の環境で実施する事が出来ました。アンケートでは参加者の子供が100%楽しかったと言って頂ける事業となり、大人の80%がまた参加したいと回答して頂き、森林について学べたという様な声も頂いている事より、子供にも大人にも啓蒙出来たと実感しました。特に子供には登山前と登山後で絵画を書いて貰い比較をしましたが、山に対する認識が深くなり大きな変化が見て取れました。 最後に、より多くの方を啓蒙したいと、保全税を使った事業をTV番組にして欲しいと、TV局の方と働きかけておりました。その成果が実り、30分番組を製作して山陰地域全域を啓蒙する事が出来ました。</p>	
	対内的	事業参加者全体の80%以上の方が共有出来たと回答頂いている事からも、今回の事業において参加者の対内目的は達成できたと考えております。	
事業内容検証	運営上	智頭の「里山レストラン」にて、事業当日スムーズな運営が出来ませんでした。詳細な委員会資料を当日までに用意して、委員会内で共有できていれば防げたと考えてました。	
	予算上	支払いを振込で行う計画だったのにも関わらず、現金での支払いをしてしまい、専務・事務局長をはじめとする多くの方に分かり難い決算となってしまいました。	
	その他	アフターがある定例会に関しては、早い段階での会場抑え、また最悪の事態を想定して定例会が行える条件が揃った会場を入念に選定しておく必要がある。	

次年度への引継ぎ	智頭町と若桜町と協力者を通して良い関係が築けました。この繋がりを大切にしながら、残った自然環境の好循環の一つである「水の好循環」について推し進めて欲しいと思います。また、より多くの方を啓蒙する為の更なる工夫を加えて次年度以降の更なる飛躍を望みます。
----------	--

委員会名	究極の田舎政策委員会				委員長	林 照悟
事業名	地域連携サポート事業					
実施日時	2017年6月21日～11月10日					
会場	因幡地域					
参加人員	内部	20人	外部	31人	計	51人
事業目的検証	対外的	<p>□いなばをむすび隊の会議体を2つに分けることで、地区代表者会議では、各地区のメンバー同士の意見交換が活発になり、地域連携を継続・発展的に取り組んで行くという機運を十分に高めることが出来ました。また、意見交換会においては、地域連携の機運を高めるとともに、地区代表者会議にて企画した取組みに対するアドバイスなどブラッシュアップ的な機能を合わせ持つことが出来ました。</p> <p>□地域連携を円滑に運営するのに不可欠な事務局的作用を明確にしたことにより、その重要性を関係者に認識して頂き、いなばをむすび隊自立に向けた第一歩となる、事務局の担い手を確保することが出来ました。</p> <p>□提案型委託業務というこれまで鳥取青年会議所にはない事業形式を用いることにより、各地区から地域のニーズに合致した素晴らしい事業が提案され、鳥取青年会議所が事業に関する詳細な調整や準備に手を取られることなく、事業を構築実施出来ました。</p>				
	対内的	<p>□成果報告会という形式にて、いなばをむすび隊として第一弾となる取組み「ゆる～く住もう！とっとり移住定住体験ツアー～ちょっと鳥取来てみんない。～」の様子について、出席頂いた鳥取青年会議所会員へ動画等を交えて報告することが出来、因幡地域の魅力を再認識することが出来た。</p> <p>□報告会により、各地区が連携しオリジナルな事業を提案して頂いたことにより、JCメンバーだけではなかなか気づかない因幡地域の魅力について、JCメンバーが改めて再認識することが出来ました。</p>				
事業内容検証	運営上	いなばをむすび隊は、まだまだ、地区メンバーが寄って集まってきた状態であり、完全な一体感を感じる段階までには至っていない状況である。よって、しばらくは、いなばをむすび隊を機能させるために、引っ張っていく声出しメンバーが必要であると考えている。そのため、今後は、固定したメンバーが事務局を運営していき、声を出していく組織を目指し、人に左右されない組織づくりを目指して行く必要がある。				
	予算上	<p>①委託業務等の発注者からいなばをむすび隊・事務局へのお金の流れや予算を管理する仕組みとして、予算や決算の審査や変更決済などの仕組みをより、明確化する必要がある。</p> <p>②いなばをむすび隊・事務局が予算を管理するという仕組みをきちんと引き継ぐことが出来るような明確な仕組み化が必要である。</p> <p>③①,②の問題点を踏まえ、事業を実施した経験を踏まえ、新たな仕組みを提案</p>				
	その他	なし				
今後の展望	<p>今後は、本事業の結果が示す道筋である「地域が連携した継続発展的な活動の実現」のため、いなばをむすび隊の自立へ向け、事務局の独立に代表されるようなJCのサポートを徐々に減らす行動が必要となります。</p> <p>これからは、予算的な支援など継続的なJCのサポートが必要ではありますが、近々、将来展望を目指す次なる上のステージを検討する時期がやってくると確信しています。</p> <p>具体的には、より多くの地区との連携や、企業との協力関係の構築、行政への提言など、JCが絡むからこそ出来るダイナミックな展開を視野に入れ、最終的な展望である「様々な団体が密接に関わり合い、ヒト・モノ・お金が集まる日本一住みたいまち」を目指すべきだと考えます。</p>					

委員会名	新生鳥取砂丘政策委員会		委員長	清水康一	
事業名	鳥取砂丘スポーツフェス2017				
実施日時	2017年10月14日(土)～10月15日(日) 10月13日(金):事前準備日				
会場	鳥取砂丘周辺地域				
参加人員	内部	107人	外部	1520人	計 1,627人
動員計画検証	<p>トライアスロン大会ではトライアスロン協会と随時調整を行い、一般の部300名に対し320名、ジュニアの部60名に対し12名、リレーの部50組に対し12組とジュニア・リレーの部は目標を達成することができませんでした。これはジュニア競技人口が全体的に少なかったこと、チームに対する参加募集の遂行ができなかったことが大きな要因と考えます。この点に関し、協会との連携や広報の計画と内容を検討する必要があります。</p> <p>ストライダーエンジョイカップ鳥取砂丘ステージでは、目標300名に対し167名と目標達成することができませんでした。要因として、県外参加者が60%であり県内におけるストライダー人口が少ないこと、認知度が低いことが大きな要因と考えています。</p> <p>しかし、イベント全体としてはSNS閲覧回数が約4万回を超え、広くスポーツフェスを発信することができました。海外からの競技者もスポーツフェス全体で3名(韓国・台湾)の参加者がありました。</p> <p>今後は、新しいスポーツとの協働、民間企業との協働、官庁との協働をすることによりさらに認知度を上げていく工夫も必要と考えます。</p>				
事業目的検証	対外的	<p>・鳥取砂丘スポーツフェス2017では、各種団体・地域住民や民間企業に多大なるご協力頂く仕組みを再構築することができた。その結果、スポーツツーリズムを通じて鳥取砂丘とその周辺地域の魅力と可能性を体感して頂くことにより持続可能な体制作りへと繋がった。</p> <p>・トライアスロン大会では、協会と共に地元住民・漁協・らっきょ組合とのコミュニケーションを図り、ご理解を得る事ができ全面的なご協力を得る事ができ、地域に根付いた恒例イベントとなりました。</p>			
	対内的	<p>事業の運営を通し競技者に触れ合う事により、鳥取砂丘でのスポーツフェスの魅力を実感できたと考えます。参加者は全国各地また海外からの出場もあり、鳥取砂丘を含む山陰ジオパークが我々の誇るべき環境であることを再認識できたと思います。</p>			
事業内容検証	運営上	<p>各種団体との協働について</p> <p>①トライアスロン協会について 協会主催のイベントが増えているため、全員での打ち合わせができなくなっている。認識違いや思い違いが発生しやすい。全員で認識を確認できるコミュニケーションツール等の作成が必要。</p> <p>②ストライダーエンジョイカップ鳥取砂丘ステージ実行委員会について 初めてのイベントにも関わらず、連携・調整を重ねお互いが協力をすることができた。しかし、細かな部分においてイレギュラー(交通規制の周知・スタート台の組立て段取り)が発生し、当日の運営体制を構築する必要がある。</p> <p>メイン会場について</p> <p>①メイン会場の賑わいについて、天候の関係もあり賑わいの演出に失敗しました。今後は協力団体をさらに募りスポーツフェスとして相乗効果がでる様に演出の仕掛けが必要。</p> <p>②出店者が直前まで決定しなかった。(出店料を高く設定したため・他のイベントとの調整のため)遅くとも1ヶ月前には決定し、余裕を持った運営が必要。</p>			
	予算上	<p>①補助金の不採択によって予算が確保できない事態に陥ります。今後は、間接補助ではなく直接補助金を取れる形にすることによって、予算を確保することが必要となります。そのうえで、直接補助金の可能性を探っていくことが必要。</p> <p>②参加者による登録料の占める割合が大きいため動員によっては予算不足が発生する。</p>			

その他	<p>①本年度はホームページ上に体験宿泊型とし旅行代理店を通じ、砂丘オリジナルスポーツへの動員を募ったが、応募数9組と非常に少なかった。オリジナルの仕組みを創出し動員へ繋げる工夫が必要。</p> <p>②開催時期について 本事業は天候に大きく左右される。天候が安定し、予算の確保をしやすい6月開催へむけて努力をする必要がある。しかし6月は多くのスポーツイベントが開催されているので、本事業を選択し続けて頂く仕掛けが必要。</p> <p>③天候が悪い場合のシュミレーションを競技のみではなく、メイン会場・ボランティア・関係者すべてに対するシュミレーションを行い万全の態勢づくりをすることが必要。 岩戸にいざりび広場に設置した更衣室テントが突風により、吹き飛ばされた。テントの設置場所も含め、天候の悪い場合のシュミレーションおよび会場図の作成も必要。</p>
次年度への引継ぎ	<p>今後、事業を継続的に発展し安定的に開催するためには、本年度浮き彫りとなった課題や問題点を改善することが重要です。今後も多くの方の理解を得て地域住民・企業・行政・各団体をはじめとする多くの方を巻き込み横のつながりを持たせることで持続的に開催できると考えます。特に次の3点の改善が重要です。1. スポーツ団体や実行委員会を中心とした競技の運営体制を構築してください。2. スポーツ団体や実行委員会を更に募り、互いにwin-winの関係性を築くことにより相乗効果を出してください。3. 因幡オリジナルを創出し他に類のないスポーツフェスにしてください。</p> <p>私たち鳥取青年会議所が連携のパイプ役となり、より多くの人を巻き込むことが持続可能な運営体制となります。また、今年度は海外からの参加もあり徐々に認知度を上げる事に成功しています。しかし、スポーツツーリズムを確立し世界から注目されるまちになる為には、因幡地域を舞台に他には体感することができない因幡オリジナルの創出が不可欠でありその魅力を求めて多くの人々が国内外から訪れる事になり、結果的に環境と経済が好循環する事に繋がります。</p>